

雪がた

— 豊科病院だより —



豊科病院広報誌

平成26年 9月 1日 発行

発行者 豊科病院広報文化委員会

〒399-8205

長野県安曇野市豊科5777-1

URL <http://shironishi.or.jp/>

豊科病院の理念

自他を問わず人間を愛し、慈しむ心を礎に、病める人、障害を持つ人、悩める人に常に自分の家族に接するように優しく接し、最良の医療・福祉サービスを提供し、地域の人々の要求及び個別的な要求にも応え、地域で人々が快適に生活できるような支援を行う。



講演される下山さん

豊科病院では作業療法士が中心となり、精神科に入院されている患者さん向けに心理教育プログラムを行っています。7月28日には、退院支援を題材とするプログラムが企画され、松本圏域障害者総合相談支援センター（Weish）の地域生活支援コーディネーターの下山穰さん（精神保健福祉士）に来院していただき、病棟内において「地域ってステキ」というテーマ



豊科病院では作業療法士が中心となり、精神科に入院されている患者さん向けに心理教育プログラムを行っています。7月28日には、退院支援を題材とするプログラムが企画され、松本圏域障害者総合相談支援センター（Weish）の地域生活支援コーディネーターの下山穰さん（精神保健福祉士）に来院していただき、病棟内において「地域ってステキ」というテーマ

について・地域移行支援について・困ったときの対処法・自身の力を伸ばすポイントなど、地域で暮らすコツと地域生活の魅力をたくさん教えていただき、入院患者さんからは活発な質問が数多く上がりました。障害者総合支援法により地域の社会資源が以前に比して整備され、また精神保健福祉法改正等により、退院支援が積極的に行われるようになり、精神科病院と地域の距離が少しずつ縮まって来ているように思います。今後も外部の方に来院していただき、患者さんが地域の情報を得られる機会をもうけるとともに、精神科の長期入院解消に向けた取り組みをしていきたいと思えます。

で、入院患者さんへ講演をさせていただきました。講師の下山さんからは、地域の支援者

第35回あづみ野祭り

踊りの部 フレッシュ賞
山車の部 努力賞
ダブル受賞!!



豊科病院・安曇野メディア合同連

7月26日に「第35回あづみ野祭り（主催 あづみ野祭り実行委員会）」が開催されました。

この祭りは毎年、安曇野市豊科地域で行われ、メインイベントの「あづみ野ばやし踊り」が、JR豊科駅前の国道147号線を中心に繰り広げられます。踊りに参加する連は、地元自治会・

小学校のクラス・企業等で構成され、今年は47連約3千2百人が参加しました。

当院は、老人保健施設安曇野メディアとの合同連で約40名が参加。猛暑の中でしたが、2時間にもわたる熱い踊りを無事終えることができました。準備から本番後まで、様々な方の協力により成功を収めたあづみ野祭り。今年は、踊り連コンテストで「フレッシュ賞」、山車の部では「努力賞」をいただきました。今後も当院は地域のお祭りやイベントに積極的に参加していきたいと思えます。



地震体験車

7月23日、保守保安委員会主催の職員研修会として、地震体験車を使った強い地震を体験する研修会が開催されました。

「だいぶ前に乗ったよ」という職員もいましたが、この地震体験車は平成20年に導入された新しい形式で、関東大震災や阪神淡路大震災などの揺れを再現できる機能もついています。長野県にはこの1台しかないため、県内各地を飛び回り常にフル稼働の状態だそうですが、そんな忙しい中を何とかこの日だけ豊科病院へ来ていただくことができました。

実際に乗ってみると、激しく長く続く揺れは相当なものでした。地震体験車でももちろん安全に体験できるため、中には余裕(?)の笑顔を浮かべる人も…。しかし、もしもこの揺れが自宅で発生したとなると、平常心は保てず、冷静な行動は取れなくなると思います。そういった点からも、地震体験車の経験などの地震対策の必要性をあらためて実感させられました。



『エコキャップ運動』

73.5kg



約3万個のキャップ集まる

当院は、平成21年度より「エコキャップ運動」を始め、現在もその運動を続けています。

「エコキャップ運動」とは、ペットボトルのキャップを集めて再資源化し、そこで得た収益を世界の子どもたちへワクチンに換えて贈る運動です。この活動の流れは次の通りです。まずキャップは松本市社会福祉協議会さん(以下、社協

さん)へ提出され、社協さんはその各所から集められたキャップを定期的に茅野市のボランティア「夢の会」さん(ペットボトルのキャップを集めワクチンに換えて贈る運動に取り組まれている団体)へ届けます。そして「夢の会」さんが、キャップをリサイクル事業者に再生プラスチック原料として売却し、その売上金を「認定NPO 法人世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCVC)」さんに寄付します。この寄付によって国境を越えて多くの子どもたちを病気から守ることができているのです。キャップ自体は再生プラスチック製品に生まれ変わり、また建築資材としても活用されています。

当院では、平成22年9月6日に115kg、続いて平成25年5月17日に154kgのキャップを社協さんへ提出。今回は総重量73.5kg、約3万1千680個(1個:2.8g)計算のキャップを、7月14日に社協さんにお届けしました。

当院は今後も「エコキャップ運

動」を続けていく予定です。これまで当院にキャップをお持ち下さり、ご協力いただいた皆様に、お礼を申し上げます。

五味洲病院長のつぶやき



サッカーの前オランダ代表の監督ファンファーレは、現在マンチエスターユナイテッドの監督をしているけど、自分の戦術に選手を合わせる監督だから、ファン・マタがトップ下の10番のポジションに入ると香川真司の出場の機会がないんだよね。私としては、出場回数が多いチームへ移籍した方が良いと思うんだけど…、こればかりは彼自身が考えることだね。

松本山雅は天皇杯以外は殆ど負けていないから、このまま行けばJ1に自動昇格が濃厚でしょう。

(この病院長のつぶやきの取材の3週間後に、香川真司選手は移籍を発表されました。)

昼食バイキング

食事療養部では、各病棟ごとに年1回、昼食時にバイキングを行っています。今号では、7月29日にD病棟で行われたバイキングをご紹介します。

- メニュー
- ・枝豆と油揚げの炊き込みごはん
- ・蕎麦いなり
- ・ふつくらおはぎ
- ・変わりのり巻き
- ・アジのオーブン焼き
- ・サイコロステーキとエリンギの和風炒め
- ・鶏肉のポン酢炒め
- ・オクラとツナのサラダ
- ・スイカの器のフルーツポンチ
- ・コーヒール牛乳





今回は「和食」をテーマにメニューを考え、D病棟は患者さんの人数が多いので、2か所でバイキングを行いました。スイカの時期でもありましたので、スイカを器に使うフルーツポンチにしてみましたところ、見た目も良く大変喜んでいただき、殆ど残すことなく食べていただくことができました。

バイキングは、毎年患者さんが心待ちにしている行事食です。今回も皆さん喜んでくださり、「またやってほしい」というご意見をたくさん頂戴しました。バイキングの日は食事療養部の職員が全員で出勤し準備も大変ですが、皆さんの笑顔のためにも今後も続けていきたいと思いません。

(管理栄養士 上條 史子)

外来 医師担当表

平成26年 9月1日現在

曜日	月	火	水	木	金	土
精神科	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	にしぎと よしあき 西里 吉昭 医師	ごみぶち みつり 五味洵 満徳 医師	ごみぶち みつり 五味洵 満徳 医師 又は なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	ごみぶち みつり 五味洵 満徳 医師
内科	ごとう のりひこ 後藤 憲彦 医師	休 診	休 診	まるの たかし 丸野 崇志 医師	やまぐち しんじ 山口 伸二 医師	休 診

◎ 受付時間 午前 8:00～午前 12:00

◎ 診療時間 午前 9:00～終了まで

※ 午後は全科**休診**となります。

※ 日曜・祝日は全科**休診**となります。

※ご不明な点等は、受付へご確認下さい。
お問い合わせ先 電話 0263-72-8400



～・ 編集後記 ・～

今年の夏は太陽がほとんど出ずに終わってしまいそうですが、みなさんは『夏』を満喫されましたか？いつもの『夏』らしい陽気を感じる間もなく、外では秋の虫の合唱が聴かれはじめました。

“秋の日はつるべ落とし”と言われるように陽もだいぶ短くなってきていて、季節は確実に秋に近づいているようです。

秋の夜長は、虫の音色を聴きながらのんびり本でも読むのもいいですね。

※表題「雪がた」について 春から夏にかけて北アルプスでは様々な雪形が見られ、当院からは常念岳の常念坊や、蝶ヶ岳の蝶などの雪形を正面に望むことが出来ます。雪形が季節の変化に合わせて融けるように、患者様の病も融ける・・・表題にはそんな願いが込められています。

また、表題の写真は当院屋上から撮影しました。